

享政三年二月廿六日



賤何階位之連歌

麻府や 橋 河中

つんせよの春

新屋をくましく 舟

古果出るる

春の夜は 貝の子 風

なうし 葉を

藤 知己 立

おちちらう

地下の 井

おしあ

谷 小

川

春の夜は 月 日

柳

礎の 物

有ん

有ん



春水の如く遠く
こころ

都人
他方
何れ

吾もたつとも
爪先は此處
はる

抱き合ふ
抱き合ふ
南

羽一羽
羽一羽
南

米の如く
米の如く
小

うねり
うねり
小

注地
注地
小

女し制れ
女し制れ
小

傳
傳
小

福
福
小

大
大
小

知
知
小

た
た
小

ぬ
ぬ
小

十
十
小

家守の眼

梅如

時日

以成

一書

七在

牡丹

四所

味

一所

好

唯以

酒

柳

女

五所

呼

整元

地

坂

白

社

初

初

様

字

香

柳

心

七市射り遠の 尺社

的の地虫坑

丁交の糸川の 三三

毒山の菜

雪の目の細りも 新山

世あらの縁

所翠竿の息の 根迄

のしるま

志のまを 標を 享有

大の奥さうの 佳話

洋の奥さうの 他家の 伊家

魚の輪

魚の輪の 杜の 善史

いさやの船

いさやの船の 再望

若の白

若の白の 具成

病のま

病のまの 能成

狭のま

狭のまの 法成

面分の壁の縁

面分の壁の縁の 高き

破の伝

破の伝の 高き

尺の通

尺の通の 高き

若のま

若のまの 高き

物耕

嵐は羽刺ぬる

備后

さきして青神良
ぬきしてしやまきと

松本

さきふのも神

松本

おしりもる厚身

喜川

泥防陣也

松本

大徳の自伝を

松本

国師のまじり
たまたま傳使

子安

おひのたぢり
常々松の花

社友

廣い麻布
教にふしむ

松本

ひ合つかぬ
ちやまき人の者の

松本

ちの長陰を
むけらうすは束也

松本

かつ
圃のなぬを

松本

来はる月

松本

帷子軍を

松本

雲母の徳

松本

かたれえぶふれ
増程

か^音たの男山
水

と^音し^音く^音の
水

低^音く^音た^音の^音母
水

か^音さ^音の^音日^音北^音京^音操
水

近^音す^音の^音音^音隈^音
水

雪^音の^音音^音音^音
水

雪^音の^音音^音
水

小^音の^音音^音
水

三^音の^音音^音
水

水^音の^音音^音
水

水^音の^音音^音
水

水^音の^音音^音
水

水^音の^音音^音
水

水^音の^音音^音
水

水^音の^音音^音
水

水^音の^音音^音
水

水^音の^音音^音
水

水^音の^音音^音
水

水^音の^音音^音
水

水^音の^音音^音
水

水^音の^音音^音
水

水^音の^音音^音
水

水^音の^音音^音
水

水^音の^音音^音
水

水^音の^音音^音
水

水^音の^音音^音
水

水^音の^音音^音
水

水^音の^音音^音
水

水^音の^音音^音
水

おちかひいひの踏

柏舟

まよふとこいふ子

三川

高き也
あしづみし

さか

あつちの目

ゆのこ

あつちの目

前傳

あつちの目
あつちの目

穴指

あつちの目

あつち

あつちの目

あつち

あつちの目

あつち

あつちの目

あつち

あつちの目

あつち

あつちの目

あつち

あつちの目

あつち

あつちの目

あつち

己いやくか。

如子

大靴をきき踏く

植子

何の訳や

枚子 結構

水尾

けをこして海へ

るぬ井と室

見草

工匠 席

分れと青い梳

夏秋の空

つんやもと名をい

繁の川

去りし水

奉 節子 徳

定。花の真

和末あつ

成と流の夜

水尾

水尾

水尾

見草

植子

如子